

会 議 概 要 書

審議会等の名称	第9期第1回 磐田市環境市民会議
担当部課名	環境水道部 環境課
会議の開催日時	令和4年11月7日(月) 午前10時～午前11時45分
会議の開催場所	市役所西庁舎 3階 304・305会議室
出席者 (職・氏名)	<ul style="list-style-type: none"> ・委員14名 (出席者12名) 佐藤和美、星野秀次郎、伊藤正次、坂田昭夫、砂川利広、青島邦信、金原和義、小坂教光、北野伸雄、萩本幸好、玉木良汰、小野里美(敬称略) (欠席者2名) 山本哲也、新居一馬(敬称略) ・(事務局6名) 環境水道部長、環境水道専門官、環境課長、環境保全グループ長 環境保全グループ主任2名
議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次磐田市環境基本計画後期計画(案)について ①第1章～第4章について ②第5章～第6章について ③地域脱炭素化促進事業について
配付資料等の件名	<ul style="list-style-type: none"> (1) 次第 (2) 委員名簿 (3) 第9期磐田市環境市民会議について (4) 第2次磐田市環境基本計画後期計画(案) (5) 第2次磐田市環境基本計画新旧対照表 (6) 第2次磐田市環境基本計画
概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・委嘱状交付 ・環境水道部長あいさつ ・委員紹介、職員紹介 ・会長及び副会長の選任 ・第2次磐田市環境基本計画後期計画(案)について ・その他

<p>会 議 録</p>	<p>(1) 第2次磐田市環境基本計画後期計画(案)について</p> <p>①第1章～第4章について</p> <p>【事務局】説明</p> <p>【意見・質問】</p> <p>会 長：ただいまの説明について、質問・意見はありますでしょうか。 第1章から第4章までの中でお願いします。</p> <p>委 員：取組みの各指標について、目標値が変わっているものがあります。目標を下げた指標について理由があれば教えてください。</p> <p>事務局：例えば、新旧対照表の48ページ「文化財関係施設への入館者数」について、目標値はこれまで48,500人としていましたが、後期計画では30,000人としています。前期計画策定時は周辺地域で大規模なイベントもあり、来場者数が非常に増えていた時期でさらなる増加を期待しての目標値としていたのですが、その状況も落ち着いた中でコロナ禍もあり、今後計画を見直す中で現実的な目標値に変更しました。</p> <p>委 員：今後コロナはどうか分かりませんが、今の説明でよしとします。ほかにも例えば新旧対照表49ページの「1人1日当たりのごみ排出量」は、2022年度目標値685グラムから696グラムに悪化しています。「上水道有効率」の2021年度の実績が2016年度から低下、目標値も現状の2022年度目標値とほとんど同じです。この辺りの理由も教えてください。</p> <p>事務局：今年に磐田市一般廃棄物処理基本計画が見直され、そちらの内容を反映したもので変更になっています。前期計画の時も同じ数字を使用しています。</p> <p>事務局：廃棄物処理計画がなぜ変わったのかを説明します。主な理由と</p>
--------------	--

して、災害が非常に多く発生した事があります。クリーンセンターが新しくなり燃やす機能も向上しましたが、旧クリーンセンター跡地に大木を処理する設備も導入した結果、災害時の処理量が増えてしまったことがあります。

委員：災害ごみは特異点になるので、日常生活の取組みと分けて別計上はできないのですか。

事務局：一般廃棄物の処理量は、廃棄物処理法で定められている数字で、その統計を反映した形としています。

統計の取り方については、担当部署と考えていきたいと思えます。

委員：ごみを減らしたとしてもそれを評価する指標がなければ頑張った人が納得できないと思います。やった努力を評価する指標が必要なのではないかと思えます。

会長：ありがとうございます。難しいとは思いますが、日常的な廃棄物と非日常的な廃棄物の区分けができると良いと思えます。

事務局：難しい部分はありますが工夫していきたいと思えます。廃棄者から災害ごみか日常ごみかを、負担にならない中で確認する方法が必要になると思えます。ご意見ありがとうございます。

委員：思い付きですが、ごみを搬入する時に聞き取るなどの対応ができないか。検討してみてください。

会長：ありがとうございます。ほかにありますか。

委員：計画案 21 ページ第 4 章の内容について提案があります。

各基本方針の中で、どこに何が書かれているのか、一目見てわかる目次のようなものがあると良いと思います。

事務局：ありがとうございます。調整したいと思います。

会 長：ほかにいかがでしょうか。

委 員：全体を通して、色が上手に使われていると思いますが、色盲の方について配慮するような使われ方がされているかが気になりました。また、音声コードで読み上げができるような仕組みがありますので、視覚障害の方にも配慮された工夫が今回は無理でもできると良いと思いました。

専門用語が多く、前期計画は用語解説のページがありましたが、今回はないため気になりました。特に新しく出てきたカーボンニュートラルやゼロカーボンシティ等の説明がどこかに表現されていると良いと思いました。3R等の説明が前期計画の中ではありましたが、今回も入っていると良いと思います。

事務局：ありがとうございます。色合いの問題ですが、グラフ等は白黒印刷でも確認をしていますが、最終チェックは専門業者に確認を取る予定でいます。

用語解説は、今回の資料に間に合いませんでしたが、資料編として計画の後に加わる予定です。資料編には、基になる条例や環境市民会議の委員名簿、策定の経緯、用語解説等を掲載します。音声コードは実施できるかどうか確認し検討します。

委 員：エコアクション 21 の継続について、もう一度確認します。

磐田市としてエコアクション 21 はもう取得しないということですか。計画に載せないだけですか。

事務局：エコアクション 21 ですが、磐田市は取得して 11 年目になっています。10 年を過ぎていますので、より精度を上げるための見直しを検討しています。

施策に関しては、この後説明する第 5 章に掲載しています。

会 長：事業者の取組みが重要なので、モチベーションを高める施策をお願いしたいと思います。ほかにいかがでしょうか。

委 員：新旧対照表 51 ページ「学校給食における残食率」について、重量だったものが割合になっていますが、重量のままの方が分かりやすいかと思いますが変えた理由は何ですか。

事務局：変更前の指標は、給食センターや各学校の給食 1 回当たりの残った量を合わせたものでした。この量は、コロナの影響等による臨時休校等があると数字だけが大きくなり、現状をうまく把握できないということがありました。変更後の残食率という指標は、環境省が毎年調べている数字で、実際に提供した給食の量を分子とし、欠席した生徒の数を差し引いた人数を分母とする等、より具体的に現状を表す数字になるということで、変更しました。

委 員：わかりました。もう 1 点提案があり、後期計画案 23 ページなどの「市民・事業者の主な取組み」の表について、行政の取組みも加えた方がわかりやすいのではないのでしょうか。

事務局：新旧対照表 16 ページをご覧ください。前期計画では、基本方針を記載したページで「市の施策と主な取組み」と「目標」を見出しで記載していました。後期計画案では、「目標」を「施策」に表現を変え、市の取組みを記載しています。見開きで市・市民・事業者 3 者の取組みが分かるように表現している点

は、前期計画と同じになります。

委 員：わかりました。

会 長：ほかにいかがですか。

委 員：後期計画案 25 ページで、「特定外来種」ではなく「特定外来生物」が法令上正しい表現だと思います。

また、同じページの「市民・事業者の主な取組み」について、「外来種について理解を深め、地域に持ち込ませないようにする」という表現に問題はありませんが、環境省が「外来種被害予防三原則」を作成しており、その中で「入れない、捨てない、拡げない」としています。市の計画案は「入れない」ことだけに限定しており、外来種について理解が不足している印象を与えてしまうため、国の発信している情報と整合性をとるように修正してはどうでしょうか。

事務局：ありがとうございます。ご指摘の箇所は修正します。また、「市民・事業者の主な取組み」については、表現と内容を改めて確認します。

会 長：「外来種を持ち込まない」については前期計画の時も議論になったと記憶しています。捨てないことも大事ですね。ほかはいかがでしょう。

会 長：私から 1 点あります。後期計画案 22 ページから 23 ページの基本方針 1 について、「土壌」に関する記述がありません。おそらく水質の調査によって、土壌保全を考えているものと思います。前期計画では雨水の調査や地下水の調査といったものが入っていますので、土壌に関して配慮していることがわかりま

すが、後期計画案では「水質事故等の原因者に対し改善に向けた指導を適正に行う」に集約されていると考えればよいのでしょうか。

事務局：はい。その項目に集約されています。土壌汚染は水質汚濁と同様に、流すべきでないものを流したことに起因するので、その手前の水質汚濁を防ぐということで、このように表現しています。

会 長：後期計画案では、磐田市は 34 パーセント程が農地で、森林も多いと記載されています。そういった環境の中で土壌もきちんと保全していくことは、非常に重要なことです。雨水調査や地下水調査という記述が入っていないのは、行政がどのように取り組もうとしているのか少し曖昧になっていて、市民の皆さんに対し「土壌の大切さ」というものの啓蒙につながっていないのではないかという印象を受けます。そのあたりの記述は、どのようにしたらよいか気になったため、意見として申し上げました。

会 長：ほかになれば、次に移ります。

②第 5 章・第 6 章について

【事務局】説明

【意見・質問】

会 長：ただいまの説明について、ご質問・ご意見はありますでしょうか。

委 員：先ほども質問がありましたが、エコアクション 21 についてです。磐田市は産業関係がとても多く、市内の事業者が環境マネジメントに取り組む体制作りとして指標は残した方が良いので

はないでしょうか。

もう1点あります。後期計画案46ページ「交通に関する脱炭素の推進」で公共交通の利用を促進とありますが、路線バスはどんどん減っています。公共交通の定義によるかもしれませんが、路線バスが減って交通過疎地帯も発生するような状況で、どのような具体的な施策があるのか気になります。

事務局：公共交通についてお話しします。すでにバスの路線が、様々な理由で減りつつあります。その中で去年は廃止された路線分について、自主運行バスを走らせることで補いました。ただし、いつまで続けられるかわかりませんので、すべてを含めた将来的な足の確保を考えて、公共交通計画を今年度中に作成します。また、本市はデマンド型乗り合いタクシーを先進的に進めています。そちらも使いやすいように拡充を検討しています。なお公共交通会議の中では、バスの新たな運航方法に加え、ボランティア輸送など、将来的に交通弱者の足の確保ができるような検討を進めているところです。

委員：市民への周知をお願いしたいです。

事務局：公共交通会議で実施していきます。

委員：よろしくお願いします。

事務局：エコアクション21についてです。これまでの指標にあったエコアクション21については、市の事務事業にあたる部分の認証ということで進めてきました。様々な事業者がエコアクション21に参加していただくため、市では補助事業も用意しています。

後期計画案45ページ「施策6-1消費エネルギーの削減」の

「事業活動に伴う削減」において、「環境マネジメントシステムの導入により消費エネルギーの削減を目指す事業者を支援する」としています。エコアクション 21に限らず ISO 等、先進的に取り組まれている事業者もあり、このように表現しています。

委員：エコアクション 21についてはすっきりしない点もありますが、産業が多いのでしっかり取り組んでほしいです。

後期計画案 45 ページの指標「地球温暖化に関する啓発事業の参加人数」は、これから子どもの数は減っていくため、全校生徒における割合や、在学期間における参加回数などにしてはどうでしょうか。

事務局：ありがとうございます。ご意見を基に検討します。

会長：他にいかがでしょうか。

委員：言葉が難しいように感じました。例えば後期計画案 45 ページの「HEMS」について説明が掲載してあれば良いと思います。また、計画案 46 ページ「市民・事業者の主な取組み」の高効率照明に関する項目について、以前は冷蔵庫が一番電気を使う家電でしたが今はエアコンが一番になりました。項目の中に「家電」の記述もあった方が良いのではないかと思いました。

事務局：ありがとうございます。検討します。

会長：余白もありますので検討してみてください。ほかにありますか。

会長：私から質問が一つ。後期計画案 42 ページの二酸化炭素排出量の推移について、2050 年排出量が 2030 年よりも増えていま

すが要因は何でしょうか。

事務局：国の出している統計資料を基にしていますが、詳細なデータの開示はされていません。経済成長に伴い、私たちが便利な生活を求めれば、二酸化炭素排出量も増えるという想定のもとです。

会 長：経済成長は私たちも歓迎するところです。それに伴い、ある程度排出量が増えるという説明はわかりますが、私たちの便利な生活が排出量を増やすとなると、なるべく抑えようという活動への啓蒙と整合性をどのようにとればいいのかとも思います。

事務局：そちらを踏まえた将来予測が後期計画案 43 ページになります。

会 長：わかりました。ほかに質問はありますか。

委 員：二酸化炭素排出量について国の統計から目標数値を算出していることと思いますが、統計に表れない企業努力で排出量は違ってくるところがあります。非常に難しいことは承知していますが、市民や事業者が実際に削減した量が、反映できるような数字をまとめられれば良いなと思います。

もう一点は、後期計画案 37 ページの温室効果ガス排出量の単位 (t-Co₂) が誤記になっています。

会 長：ほかはいかがでしょうか。

委 員：磐田市の総合計画が骨格となる中で、市がどこを目指していくのかという中で環境をどうとらえていくかが重要と考えます。意見や質問を言うだけでこの会議が終わっていいのかというところを感じます。

事務局：本計画は総合計画の下位計画に位置づけられています。総合計画は、今の人口をできるだけ減らさない努力をするという短中期的な考え方になっています。そのため、今の規模の中で、本市のいいものを守っていこうという趣旨になっています。

会 長：ありがとうございます。時間がありますので、次の項目に移ります。

③地域脱炭素化促進事業について

【事務局】説明

【意見・質問】

会 長：ただいまの説明について、ご質問・ご意見はありますでしょうか。

会 長：質問なしということで、議事は以上になりますが、全体を通して言い忘れたことがあればご発言ください。

委 員：計画の検証について PDCA をしっかり回していくことが必要だと思います。前期計画期間の中で、達成もしくは達成に近づいたものもあれば目標から離れたものもあります。目標に対して上手くいったものとそうでないものの要因を説明してもらえると、よくわかると思います。

会 長：ほかにありますか。

委 員：後期計画案 17 ページの「それからも」という表現になっているが、新旧対照表 14 ページでは「これからも」となっている。どちらが正しいですか。

事務局：計画案が正しい表記です。訂正します。

委員：後期計画案 30 ページの指標「環境教育に取り組む学校の割合」について、公立小学校を対象としています。計画案 50 ページから 51 ページでは中学校 3 校から素晴らしい意見が出されているため、指標を変えていいのであれば、「小中学校の割合」に変えて、できれば私立学校も含めたすべての小中学校が対象となると、より良いのではないかと思います。

事務局：貴重なご意見ありがとうございます。基本方針 5 の公立小学校に関する指標は、指標として把握しやすい側面があり、100 パーセント取り組んでいるところを維持したく設定しています。最終的には中学校に広げていきたいと考えています。

会長：ありがとうございました。大変多くの意見をいただき、活発な議論がなされたと思います。

これで本日の議事は終了いたします。

閉会